

11月末組織人数  
5,232人

岩手県連ホームページに  
アクセス出来ます。 →

# 建労いわて 月刊号

発行所  
岩手県建設労働組合連合会  
教宣部  
盛岡市本宮一丁目7番27号  
電話 019-631-3280  
FAX 019-635-4015  
発行者 藤井泰男

## 岩手労働局 意見交流会

# 要請が形になる

## 継続して指導と点検をお願い

11月26日(月)、岩手労働局との意見交流会を行いました。全建総連本部から田久労働対策部長、岩手県連からは、高橋会長、高舘副会長、右京社保労働対策部長含む8名、盛岡建設労働組合から2名の参加。岩手労働局からは8名の参加でした。

その後、岩手労働局から要請事項に対する回答が行われ、労働局としても事業所、労働者、関係各所にきちんと周知・指導に取り組み、費用補助等については厚生労働省に報告していくと回答がありました。

今回の意見交流では「労働安全衛生対策」「労働保険制度について」の2点を重点項目として要請を行いました。労働安全対策では、安全経費の別枠確保・支給を現場で確実に実施されるように指導と点検を求めました。

労働局からは「労働安全衛生対策では、国土交通省と厚生労働省でチラシが配布されているので、工事の発注機関等にきちんと指導をしていただきたい。労働保険メリット制の悪用や元請労働責任を放棄しないように指導の徹底をお願いします。」と話されました。

労働局からの回答後、全建総連の田久労働対策部長は「石綿関連疾患で労災認定を受けている建設業の方が毎年約550人います。今裁判をしている方もいるが、原告の7割が亡くなっている」と聞ききました。そうすると毎年約400人近い人が亡くなられている可能性があります。この人数は死亡災害よりも多い数値となります。この現状を1つの災害として改めて対策を強化して頂きたい」と意見を述べられました。



県内4ブロックの代表者も参加して労働局へ要請を行う



要請書を岩手労働局へ手渡す高橋県連会長(写真右)

今回の要請では、以前お願いした石綿対策において岩手労働局でDVDを作成し医師会や関係各所へ周知や指導を行っている事など、私達の要請が形になっていることを確認する事が出来ました。来年度も継続して労働局との意見交流を行って参ります。

【県連 鈴木 章 記】

## 年末年始のお知らせ

12月29日から1月3日まで事務所はお休みさせていただきます。1月4日から業務開始となります。

また12月28日と1月4日は、午後からお休みさせていただきますので、併せてよろしく願いいたします。

岩手県建設労働組合連合会  
中央建設国保岩手県支部

## きずな

◆就職列車にゆられて着いた遠いあの夜を思い出す上野は俺らの心の駅だ♪井沢八郎のヒット曲「あゝ上野駅」の一節である。戦後のベビーブームに誕生した団塊世代も古希を迎え、高齢者の門をくぐった。敗戦後、親はこの70歳を生かす為に大変な思いをしながら育ててくれた。70歳も家族の為、国の発展の為「金の卵」と称され上京した。それが今日の国を築いたと言っても過言ではないだろう。

◆最近、戦後73年経って何か世の中、井沢八郎の曲の時代が近づいて来るような気がしてならない。70歳も門をくぐって老化が現れたのではないか。

◆先日「広報かまいし」の野田武則市長のコラム「市長のつぶやき」で、釜石市の人口の推移が書かれていた。30年前の平成元年3月末には100歳以上が2人、90歳代の高齢者は99人だったのに対し、30年後の今年10月末時点では、100歳以上18人、90歳代が873人となっているそうだ。社会に関わりのある人が長生きする傾向にあるようで、その人の生活は趣味を持ちながら社会活動に貢献している」と記されていた。

◆70歳も老化を遅らせる為にも見習いたいものだ。  
【教宣部長 藤井泰男】